

○徳島市総合計画2025の各施策についての事前評価・意見

資料 5

施策01 コンパクトで機能的なまちづくり【C】

KPIは、「人口・ランドマーク施設来館・公共交通利用」とバランスは考慮されていると思うが、まちづくりの「コンパクトさ」や「機能性」を表すものではないので、そうした指標があれば良い。

市バスの一泊平均乗車人数が昨年より減少している。路線バスの再編による影響との理由であるが、今後、再編によって利便性の向上を図っていただきたい。タクシー数の減や高齢化によって、バス交通は今後さらに重要となるため、再編によるメリットをさらに高めていただきたい。

県都としての徳島市の役割は大きいと思われる。現在、ようやくアミコビルから阿波おどり会館に向かう間のホテルなどの建設が始まったが、やはり東新町が真っ暗な状態というのは、町としての広がりがなく寂しく感じる。

中心市街地のかたちが見え始めた段階であり、今後の推移を見守りたい。また、バス事業については工夫が足りない。今後は徳島の自家用車文化を変えるのではなく、自家用車と併存（パークアンドライド、電気自動車の市内道路優遇）することを考える時期である。

施策02 多機能な都市空間の創出【A】

公園管理業務を主としていることから事情はよくわかる。公開空地や道路整備などの部局との調整を図り、緑と調和した施策を必要とする時期である。

施策03 環境の保全と向上【A】

仕方がないことだとは思いますが、3つの成果指標のうち2つが未測定であれば、施策としての評価をこの段階で行うことは危険な気がする。今後の測定結果を踏まえ再評価されるのがよいと思われる。

CO2問題として捉えるならば、市内事業所、市内家庭で「オール電化」を普及させるのがベストである。実質ゼロでなく、ほんものゼロを目指すことができる。市内の交通量を減らし、電気自動車流入優先の施策をとることで「実質ゼロ」の実現は容易になる。

施策04 循環型社会・廃棄物処理の推進【B】

リサイクル率の向上が見られない。今年度からペットボトルの単独回収を始めており、ラベルを貼ったままの場合は回収しないなど徹底する努力が見られるが、この機会をチャンスとして、ごみ減量に向けた啓発に力をいれていただきたい。回収されたペットボトルはどう生かされているのか、市民の意識向上のための広報に力を入れていただきたい。

徳島市でもようやくペットボトルを分別するなどの回収が始まったが、他の市町村に比べてリサイクルに関する感度が低いように感じる。上勝のようにとまでは言わないが、有料ゴミ袋などの検討もしてもよいのではないかと。

廃棄物の分別区分を令和8年4月より変更しているが、ペットボトルのリサイクル率は向上するのか(市の事情で変更したのであれば、評価指標を追加すべき)。

施策06 農林水産業の振興【A】

KPIに水産業も含め、生産高、水揚げ高、所得などの経済的な指標も必要ではないか。

毎年ご指摘しているが、すべてがアウトプット指標であり、成果が捉えにくい。施策の目的は「振興による市内農家の営農確保」なのか「市内の農産物の生産拡大なのか」ははっきりしない。どちらを優先するか、決めるべきではないか。(コスト削減などの視点が異なる)

施策07 商工業等の振興【B】

物価高騰や人手不足など地域事業者を取り巻く環境が厳しい中、DX化支援や伴走型支援のさらなる充実を図るとともに、地域事業者の成長と地域経済の活性化につながる施策を推進していただきたい。

新設件数での振興の測定は全体目標からすると間違いではないが、求める姿がDX、新産業創出であり、目標と施策の内容が乖離している懸念がある。(DX化という言葉は間違いであり、IT化なら意味が通る。)

施策08 働く環境づくりの推進【A】

近年重視されている人的資本経営に係る取組の両輪として、ダイバーシティ経営とともに、健康経営が注目されている。国を挙げた推進で認定企業数も大幅に拡大しており、指標として活用が考えられるのではないかな。

就労支援セミナーの開催から参加者の就職につなげられたとのこと、今後にもつなげていただきたい。一方で、前年の値と比較すると、雇用拡大人数は1人、ダイバーシティ経営企業数は2社の増加にとどまっていることが気になる。県外就職を選ぶ最大の理由が「志望する企業がない」という現実を踏まえると、「目指す姿」に合致する企業の存在を若い世代とその親世代に伝えたい。

就職格差(男女、学歴、年齢など)を減らすよう企業に働きかける時代になっている(大卒新人はほぼ就職できている)。市だけでなく、他の機関、国や県と強調した施策構築が期待される。

施策09 観光・交流の促進【B】

徳島動物園の施設が老朽化しているので、改修を進めているとのことだが、もう少し来場者の対象の幅を広げ、中高年にも若者のデートスポットにも利用できるようにコンセプトでリニューアルできないだろうか。

はたして「動物園」は何の目的で設置運営しているのかわからなくなっているのではないかな。(教育目的?)投資が課題になっている可能性がある。観光素材としては活用が難しい時代になっている。

施策10 全国との多様なつながりの拡大【A】

市の全国的な魅力度を高める手段として、ふるさと納税はまだまだのびしろがあるように思われる。寄附件数の伸び率も物足りない印象である。PRのみならず、新たな返礼品や体験、価値等の創造により積極的に取り組んでいただきたい。

どの数値も目標値からはかなり離れているように見えるが、全て概ね順調としていいのだろうか。特にふるさと納税などは、全国の市町村との競争なので、もう少し危機感を持って取り組んだほうがよいと思われる。

(担当課の組織上の問題とは思われるが)「公民連携プラットフォーム」の取り組みと、移住との関係は不明確である。さらに、ひょうたん島周遊航路維持と移住者数増加の関係も理解ができない。

施策11 防災・減災対策の推進【A】

市域全体に同じような施策でなく、地域ごと(水没地域、がけ崩れ地域、液状化地域)の災害の種類との関係を考慮してはどうか。防災DXとはいうものの、情報活用によりどのように安全度を高めるか検討が必要である。

施策12 消防・救急体制の充実【B】

今後、機能別団員の確保拡充を期待する。

施策13 生活安全の推進【B】

特殊詐欺被害は、関係機関の啓発努力にもかかわらず増加傾向に歯止めがかからない状況にある。子供や学生、高齢者など、世代を問わず、効果的な注意喚起、被害防止対策に注力していただきたい。

知能犯(詐欺)認知件数が急増している。SNSを利用した投資・ロマンス詐欺、ニセ警官詐欺など、特に高齢者に被害が多いようだが、若者の被害も増えているのではないかと。広報誌やホームページ上での注意喚起では被害防止に直結できないのではないかと。学校や職場、団体、イベントなどで、セミナーを開催するなど、具体的な対策を伝える機会を増やしていただきたい。

施策15 上水道の整備【B】

人口減少局面において、どう「維持する」かに重点をおいた計画を作る時期に来ているのではないだろうか。

施策18 健康づくりの推進【B】

糖尿病、有病者及び予備軍の割合が相変わらず高いのは、医療機関が充実している我が県において、とても残念な状況だと思う。糖尿病は認知症の原因の一つとも言われているので、引き続き何らかの方法での改善対策をお願いしたい。

施策19 社会保障の充実【B】

いわゆる水際対策でなく、丁寧な経済状態の把握とそれによる就労(自分でお金を少しでも稼ぐという意欲)につながっているようで好ましい状態である
と考える。

施策20 地域福祉の充実【B】

非営利法人の中でも、特定非営利活動法人は休眠状態にある団体やほぼ活動していない団体等が散見されるので、認証法人数のみならず実施的な活動
状況も踏まえ分析されるのがよいと思われる。

施策22 障害者福祉の充実【B】

法定雇用率を満たしている市内に本店を持つ企業の割合を指標としてほしいところである。

施策24 「生きる力」を育む学校教育の推進【A】

不登校の理由が多様化しているのではないと思われる。その点「コミュニティ・スクール」の活用状況を把握し、きめ細かい対応(学校だけが居場所では
ない)ができていることをよしとする考え方はどうか。

施策25 信頼される教育環境の実現【A】

地域との関わりというのは難題かもしれない。昨今、児童のプライバシーや児童・学校のセキュリティへの関心が高まり、関わらないでおいたほうがよいと
いう風潮にある。情報共有も大切だが、具体的に、学校管理下のイベント企画などが望ましい。さらに部活動の民間移管などやむをえず行っている施策の
進捗も難しいだろう。

施策26 心豊かでたくましい青少年の育成【A】

社会体験活動の目的が「異学校・異学年」の交流になる理論付け。まずは市議会の見学、上級学年では傍聴を議会と連携して実施してはどうか。

施策27 人権尊重・多文化共生社会の実現【B】

人権啓発活動の内容の刷新してはどうか。

施策28 男女共同参画社会の実現【B】

啓発により市民意識は向上している一方、審議会女性登用など構造面の改善は十分ではないため、企業等と連携した女性管理職の育成・登用の推進が求められていると考える。

徳島県内では女性社長も多く、活躍している女性が多いと思われるので、審議会の委員総数のうち、女性の占める割合が3分の1にとどまっているのは残念に感じる。

固定的性別役割分担意識に反対する割合が目標を達成し、DV相談窓口の認知度も改善されていることを評価する。徳島県が企業の女性経営者の割合で4年連続全国1位であることを鑑みれば、審議会等への女性委員の登用割合が当初値を下回っていることは大変残念である。職務上、女性委員の確保が難しい審議会等がある場合でも、他の審議会等での登用を進めることで全体として改善する余地はあるのではないかと考える。

施策29 文化芸術・スポーツの振興【B】

目指す姿に対し、KPI「文化芸術に親しめる環境が整っていると感じる市民の割合」30%は目標値として低すぎるのではないかと考える。

徳島市は常に話題になっているように、大型の公共ホールがなく芸術公園数なども少ないと感じている。芸術文化に親しめる環境が整っていると感じる市民の割合が30%というのは、目標値としては少ないのではないかと考える。

熱中症対策を兼ねた改修後の田宮のプール利用に期待する。

施策30 生涯を通じた学びと文化財の継承【A】

計画の体系上の問題であるが、生涯学習と文化財保護を同じ施策として評価するのはなかなか難しいと思われる。

生涯学習講座の「満足度指数」を調べておくと、効果がよく分かる。

施策31 地域自治・協働の推進【A】

NPOや民間企業との協業も大切だが、県や広域市町村との連携も非常に重要な問題だと思うので、引き続きお願いしたい。

地域計画は全市の地区で立てるとして、目標数は「8」だろうか。8の根拠は中学校校区か。職員が協働事業を計画するという前提ならわかるが、協働事業数の増加と職員意識の関係はあいまいではないか。